

---

# Lunar eclipse ~ 純白の王子様 ~

白夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Lunar eclipse 純白の王子様

### 【Nコード】

N0141A

### 【作者名】

白夜

### 【あらすじ】

あらすじ準備中

## 第一話：工藤の懺悔（前書き）

このお話は、とーやさんの『漆黒の王子様』の続編として書き始めさせて頂きましたが、

……申し訳ありません。

全く、ベツモノです。

救われる少女も、完全に別人！

ただ一つ、約束通りなのは、

例の真っ白なの方が王子様である、と言っただけ！

それでも構わない、と言う方は、ご覧になってください。。。。

## 第一話：工藤の懺悔

俺がコナンから新一の姿に戻って…3年目になっていた。  
組織とも 壮絶に戦った。

服部に。灰原…宮野にも、親父にも協力してもらって。

…やっと、ほぼ壊滅に追い込んで、安心して道を歩ける程度になった。

やっと元に戻れたのに、俺は スベテが以前とは変わってしまった  
いることに気付き始めていた。

以前は快感だったハズの マスコミとの関わりも、  
探偵としてチャホヤされることも、なぜか疎ましく思うようになっていた。

一番大変だったのは 随分 疑り深くなってしまったアイツを安心  
させる事だった……。

俺が騙していたんだ。俺が悪い。

それは仕方ないんだけど…

いつまでも ずっと離してくれなくて。

「また私だけ取り残されるのはイヤ！」って

……いつだって着いてまわるようになった。

「バーロオ…もうあんな事はしねーよ……」

そうそうあることじゃないし。

……俺だって……傍に居たいんだから。

もう、あんな経験はイヤだ。

アイツに…俺として触れられないなんて。

何度も繰り返したこんな遣り取り。

言っとくけど、ノロケてる訳じゃねーぜ？

今日の 墓参りだって…元の姿に戻ったら 一番にでも行きたかったのに……

長い時間掛けて やつと納得させて来たんだ……。

「工藤 キレイな海やなあ！

きつと食いモンもウマイで！」

……尤も…墓参りだったのに 妙にテンション高い色黒男のオマケ付き、って事でだけどな…。

蘭につけられた監視役だ。

「ちょっと遠出する」って言ったらコレだ。

尤も…何の為にこんな所まで来なければならぬのか 蘭に言うわけにいかないんだから仕方ない。

……蘭、ゴメンな。これは、絶対…やっておかなきゃなら無え事だから…。

俺が犯した罪への…懺悔。

たった一つの方法だから。

## 第一話：工藤の懺悔（後書き）

“作者”より

皆様、かなり お久し振り投稿・そして長編& a m p・連載は初投稿の“白夜”で御座います…。

『え？“純白の王子様”じゃないの？（怒』と思われた方、ゴメンナサイ！

とーやさんを始めとする 皆様方、本当に御免なさい。彼も、このフリーズも必ず出て来ますので…。

“もし長編にするなら あんな事も こんな事も”とか妄想してしまつたら…とんでもない事に（焦

“純白の王子様”だけでは収まり切らない内容と成りまして…。そこまで辿り着くまで…そして…終結まで 暫く時間が掛かるかも知れませんが、どうかお許しを。

それでは お氣の向かれた方、どうぞ ごゆるりと 最後まで御付き合います様 宜しくお願い申し上げ奉り候…（クドいちゅうねん！そもそも、コメント自体 長過ぎやっちゅうの。

## 第二話：工藤の懺悔 その2

俺達は 今、伊豆半島から出ている 小さな連絡船に乗っていた。

俺の気持ちに反してはしゃぐ服部を疎ましく思い始めていた

静岡県の伊豆半島沖にある、小さな小さな島。

月影島…。

そこで二年数力月前に起きた事件。

俺はその頃 コナンの姿で。

麻生成実…

俺にとつて、一生忘れられないヒトと出逢った…。

俺が、一生掛けても償えない 過ちを犯した相手。

……俺が これまでの人生でたったひとり、『殺した』人…。

「何や くどー、辛気臭うてかなわんわ。

もつと 景気良う行こうや？」

「…服部、墓参りだって言ってたんだろ？」

景気良く墓参り行くバカがどこにいるんだよ？」

「それもそやな…」

服部は 少々静かになった…。

村役場で訪ねたら、『島に貢献した女性医師 ‘浅井 成実’』として 村外れの 無縁仏の集う墓地に 埋葬されているとの事。

その墓地は 潮風をモロに受ける場所にあり、  
吹きっ曝しの潮に浸食されて 墓石に刻まれた名前が読めない様な  
墓も多い。

お世辞にも手入れが行き届いているとは言え無え…。

「…ここから探すのはキビシイかもな…」

「そやな…でも 手分けして探せば、日暮れまでには見つかるやろ  
…」

俺達は この 人影の無い 無縁仏ばかりの墓地で、墓探しをする  
ハメになった…。

そうこうして、一時間程経っただろうか…

一人の少女が 墓地内へ入ってきた。

探したり 迷ったりするような素振りは微塵も見せず、とある墓標  
の前に立った。

何を想っているのか…粗末な墓石の前で ずっと目を閉じたまま。  
長い祈りを捧げている姿に、俺は迂闊にも 暫し見とれていた。

（どっかで見た事あるような……）



## 第二話：工藤の懺悔 その2（後書き）

“作者”より

皆さん こんにちは。

読んでくださって、有難うございます。

工藤さんの懺悔：成実先生の事だったんですね…。

（白夜、しっかりしろよ！

……次回、第三話。

やっと ヒロイン登場です！

…え？王子様はどこか、って？

……………少々お待ちくださいませ〜（汗

### 第三話：懷中時計と『少女』

“ 会いに来たわよ…”。

…いつ来ても、手入れの怠られた場所。

私も、今は【アイツ】を追って全国を飛び回っている身の上。  
しよっちゅう来る訳にいかないから、文句を言えた義理じゃないけど。

“ ごめんね。こんな場所に あなたを置き去りにしているのは…私よ。”

…あなたの心は いつも私と一緒に居てくれていると、信じたいけど。

私、心の中であなたに呼びかけながら、いつもの様に…儀式のように メガネを外すの。

私が この墓地に入る前に メガネを外すのは、いくつかの理由がある…。

あなたと『離れる』事に成ってしまった時、私はまだメガネを掛けていなかったから、

あなたが私を見つけれないとイヤだから。

あなたとは 偽らざる“素顔”で逢いたいから…。

そして、靄けた視野の向こうに、あなたの姿が見える気がするから…  
また、あなたと逢える様な気がするから…。

あなたの『居場所』は、見えなくても体が覚えてしまっているから、  
支障は無いわ…。

あなたには不似合いな チープな墓標の前で 目を閉じて。  
私はあなたから預かった懐中時計をギュッと握り締めて  
想い出に浸っていた……。

忘れないけど 忘れられないし、  
忘れてはいけない、大事な大事なセピア色の世界。

ここで呼びかければ、あなたに聞えるの？

探。

ねえ、探……。

私の声、聞える……？  
私の心、分かる……？

あなたとの思い出は、今も心の中の大半を占めている。  
一つたりとも、忘れては居ない。  
忘れない。

あなたとの出会いも。  
あなたとの 楽しかった日々も。

あなたへの想いも。

……あなたとの、別れの瞬間も……。

### 第三話：懷中時計と『少女』（後書き）

“作者”より

『少女』、本格的に出てきました  
え！？『探』って、もしかして……！

でも……それよりも…何よりも……

??：“早く墓地から出してよね！”

…『少女』のセリフが聞えそうですが…もう暫く掛かります。御免  
なさい。。。

??：“ちょっと。私、『少女』じゃないわよ！”

そして次回・第四話。

そろそろ 王子様の影がチラつき始めます…

??：“白夜！ムシするんじゃないわよ！……覚えてなさい！”

#### 第四話：【少女】の記憶その1

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*  
\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \*

病院の屋上。

予告状を解いた彼と私は 息を潜めて、差出人の来訪を待っていた。  
“ 来たわよ……”

真っ白な、彼。

…罪を重ねながら、【白】を纏う彼がいる。

【仕事】を終えて、気を抜いた彼が、宝石を月の光に翳して眺めている…

…今が捕らえるチャンス…！

“ ……いつ行く？”

打ち合わせをする私達の視界に、もう一人の人影が映りこむ。

カラスの様に真っ黒な男…。

『 ……仲間…？ 』

と、突然、【黒】は、拳銃を【白】に向けて…。

“ やめなさい！”

私、それを止めようと、考えも無しに駆け出していた…。

『愛加さん！危ない！』

ぱあん……ぱあん…

ドラマなんかで聞くより、もっと素っ気無い 乾いた音が二発して、  
……自分が撃たれたつもりだったのに。

私は 右頬を少し掠めただけだったみたい。

ドウシテ私ノ事ナンカ庇ウノ？  
ドウシテ？

物陰から走り出てきた あなたは 一瞬苦痛に表情を歪ませたけど、  
すぐいつもの表情を取り戻した。

視野の端に見えていた【黒】と【白】は いつの間にか消えていた  
わ…。

彼は おなかを押さえていた両手を眺めて 呟く様に言っの……  
『あーあ。やってしまいましたよ。参ったな…。』

“ 白馬…大丈夫！？ ”

私はあなたの手を握ろうとしたのに……

『触らないでください』

あなた、私の手を振り解いて…

“どーして？”



#### 第四話：【少女】の記憶その1（後書き）

“作者”より

【少女】Ⅱ【愛加<sup>マナカ</sup>】の姿が明らかになって参りました。

【白】と【黒】、そして銃声……

記憶の中の【愛加】と【探】……大変なコトになってます……。撃たれちゃいました！

次回・第五話：【少女】の記憶その2。

愛加：“【探】…どうして触れさせてくれないの……？”

## 第五話：【少女】の記憶その2

訊ねた私に…

『手…汚れてしまっしょ…』

そう答える貴方

ドウシテ、イツモ…

コンナ時マデ、格好ツケルノサ。

“白馬……私の事なんか庇って……”

『別に庇った訳じゃ無い…

つい、前に出てしまっただけ…気にするんじゃないよ…  
貴方の所為じゃ無いから』

あなた、私を安心させようとするかの様に、無理に微笑んで…  
痛みを誤魔化したそんな微笑みじゃ、安心出来ないんだよ…。

“白馬……”

私がダイスキなのは。

犯人を捕らえる目前の 強気な微笑みのよ。

『情け無い声、出さないでください…

そんな…じゃ僕、安心して逝け…ない…から…』

あなたの声、切れ切れに弱々しくなってきた…。

“喋っちゃダメよ！体に障るわ……！”

『…貴方…の方が…判る、でしょ…？  
こんなになって…助かりませんよ』

あなた、血塗れの両手を 月明かりに透かすようにして…。  
その手からは 温かな緋色の液体が滴る…。

預けられた 体の 重み。

段々 熱と 色とを 失う 身体…

乱れる 呼吸、視点…。

わかってるわ。間に合わない。

『【純白】の……………』  
純白？

……最期まで、キッドの事なのね……  
あんなヤツ…

あんなヤツのせいで、あなたは……こんな事になったのよ……！

“…キッドの事？ こんな時まで…。”

『愛加さん…はく……より……にあ……の……やつ……みつけた…』  
瞳を閉じたまま、うわ言の様に……。

“はく……ば……？”

ねえ、何？よく解らないわ！

…もう一度…言ってよ…”

このまま、永遠に目を開けてくれなくなるんだ、って。

もう、言葉を交わす事もなくなるんだ、って。

何人も看取ってきたから解るの。

もう、さよならなんだ、って事。

頭では、解ってる…でも…でも……

神様、お願い………お願いします……。

もう一度だけ、白馬と話をさせて  
。

第五話：【少女】の記憶その2（後書き）

“作者”より

白夜：愛加はもう一度【白馬】と話をすることができるのでしょうか…？

愛加：“神様：お願い、もう一度だけ…！”

せめて、『最期の言葉』を…。

”

## 第六話：【少女】の記憶その3

願いが届いたのか。それは定かじゃない。

でも、もう一度だけ、あなたは瞳を開いてくれたね。

いつものように、ハッキリした瞳。ハッキリした声。

私のだいじな、探。ここにいるのね…

でも、今度こそ、サイゴ…。

凜とした瞳で、真直ぐ私を見てくれる…

“探…愛してるわ……”

今までずっと言いたかったのに、言えなかった言葉、やっと言えた…。

あなた、少し目を見開いて それから私が大好きな微笑みを浮かべて…

『愛加さん…僕はいつまでも待ってるから…のんびり来てくださ  
いね…

すぐ来たら…承知しませんよ…。』

あなたらしいのね。最期まで。

“言われなくても 解ってるわよ…”

私も…私らしく……

なるべく、なるべく…笑顔で、探を見送るの。  
私らしく…。

でも、声は上擦り掛けて…頬は引きつる…  
微笑む事なんて、出来ないよ。  
だけど…涙だけは、流さない…！

あなた、微かに首を振って…

『愛加さんも…まだまだ、ですね…  
ポーカーフェイス。崩れてますよ』

“何よ…バカ。”

私、涙が溢れそうになるの…

そんな私を見て、あなたは、柔らかな顔をして…。

いつもみたいな、他愛ない会話。

きつと、サイゴ。これがサイゴ…。

一言一言が、貴重な宝物の様に感じるの…

『天国で…待ってますね…。』

最後の最期の　大きな吐息を吐いて…。

私はそれを吸い込むため、あなたと初めて唇を重ねたわ…。

あなたの最期の吐息を　一滴も残さない位、深く深く吸い込んで、  
私の胸の中を　全てあなたの吐息で染める様に…。

『何やってるんですか、愛加さん。僕にそんな…』

そんな慌てるような声が聞えたような気がしたけど、私は空に向かって、囁いた……。

“探…後の事は任せて…”

私はあなたの最期の吐息を受け継ぐの。

あなたを忘れない。永遠に。

……あなたのしたかった事、全部引き受けるわ…

あなたの夢、必ず叶えてみせる…！

“私が必ず、『怪盗キッドを現行犯逮捕する』わ…！”



## 第六話：【少女】の記憶その3（後書き）

“作者”より

白夜：チューだよ、愛加！ちゅー…

どかッ！（白夜失神）

愛加：五月蠅い、白夜！（うつすら赤面）

反応し過ぎなんだよ！

白夜：…って、ちょっと待って！

愛加、アンタ、キッドさまを捕まえる心算な訳？

愛加：アタリマエでしょ！…あんなヤツ！

サイアクなオトコなんだから！

私の手で…監獄にブチ込んでやるわ！

白夜：ハア？キッドさまに対して何よ、その良い草！

許せない！

愛加：だって、アイツは探を…

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* 以下 数十分喧嘩続く…  
- \* - \* - \* - \* - \* - \* -

愛加：あ、ごめんなさい。お見苦しいところをお見せして…オホホ…。

ええっと…次回第七話：【少女】の記憶・その結末…

“ バイバイ、探。 …でも、忘れないからね…。 ”

白夜…うう …… 愛加、覚えて居なさい！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0141a/>

---

Lunar eclipse ~ 純白の王子様 ~

2010年10月12日13時30分発行